



発行日 平成25年10月30日
 発行 名古屋市造形教育研究会広報部
 タイトル 名古屋市立東築地小学校
 安田 拓之
 名造教ホームページアドレス
<http://www.meizoukyo.gr.jp>

いろ・もようの宝物

名古屋市立南陽小学校

4年生 指導者 松本 明美

様々な色や模様であふれている時代ですが、自分でつくった色や形には感動があります。絵の具を混ぜたり重ねたり、にじませたりすることで変化する色を楽しんだり、ローラーやビー玉転がし、マーブリングでできた模様を楽しんだりする活動を行いました。



6月頃「にじみのかきごおり」をつくり、絵の具がにじんでいく様子を楽しみました。その経験から7月の七夕前に、自分だけの短冊をにじみで模様をつくりながら完成させ、願い事を書きました。「いろ・もようの宝物」に自分の願いが込められた短冊ができあがりました。



大樹を目指して

名古屋市造形教育研究会
 会長 水野 亮



子どもたちのために

名古屋市造形研究会
 委員長 佐藤 貴子



深刻化する学習の二極化が叫ばれています。何の興味も関心も持たない子が、目を輝かせて授業に参加するなどと言うことはあり得ません。

「そんな色（形）してるの？」ではなく「そう感じたんだね」が、造形での子どもと先生の会話です。どうやってやる気や興味を引き出すか。問われている課題に対する解答を、造形は持ち合わせていると思います。

「生きる力の根っこをはぐくむ」から10年後の平成31年には、次の全国大会が控えています。その根っこがどれほど大きくなり、どんな豊かな実のなる樹に成長しているか、また、子どもとともに、造形教育に携わる教員の根っこもどんどん成長しつつあると思います。

これまでの課題や成果を振り返りつつ、来たるべき年に向けて、大いに耕していきたいものです。

「いいこと思いついた！」

材料箱を真剣に見つめ、そこから自分のお気に入りの材料を探し、思いついたことを形や色に表していく。次々に活動を進め、「先生、見て！」と満足そうな笑顔で私につくったものを見せに来る子どもたち。

私は、子どもたちのこの言葉が聞きたくて、図工の授業を行ってきました。授業を考えることは、楽しくて自分自身わくわくしていました。

試行錯誤しながらも自分の思いを表し、豊かな心を育てることが出来る図工・美術は素晴らしい教科です。だからこそ、図工・美術や教科として伸ばす力が問われている今、子どもたちの思いをしっかりとらえ、子どもたちのための授業を研究会の仲間とともに、もっと創りあげていきたいと思っています。

夏の造形研修会 公開授業・造形教育講演

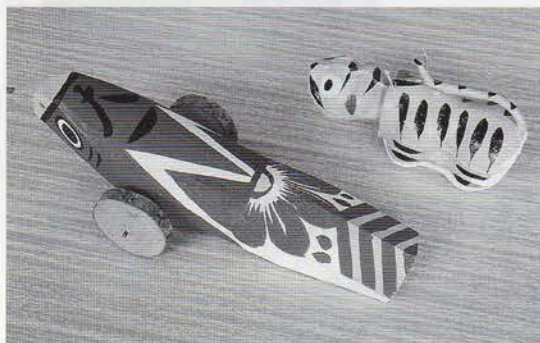
今年度の夏の造形研修会は、名古屋市立正保小学校において、公開授業と造形教育講演会を行いました。公開授業では、名古屋市立東築地小の安田拓之先生を講師としてお迎えし、正保小の4年生を対象に授業を行っていただきました。造形教育講演会では、愛知教育大学教授の竹井 史先生をお迎えしました。竹井先生は、美術科教育学会 大学美術教育学会 日本保育学会に所属され、現在は、自然素材（特に土素材）を生かしての教材化とその教育環境のあり方についての研究に取り組まれています。



大変暑い夏の日でしたが、造形教育について見識を深める一日となりました。その様子をご紹介します。

公開授業「おもちゃを見つめて」（1時間完了） 対象学年 小学校4年生

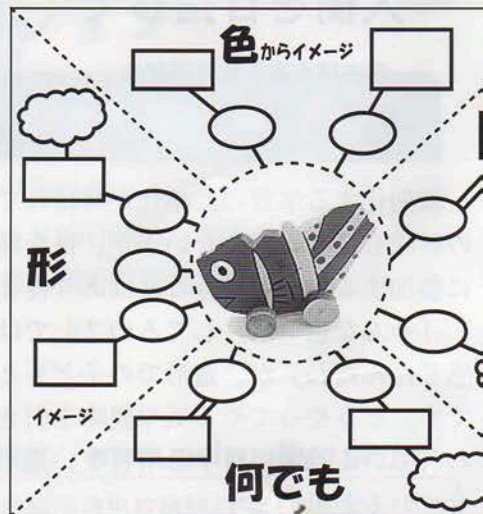
授業者：名古屋市立東築地小学校 教諭 安田 拓之



伝統的なおもちゃ

を、線をつなぎながら言葉で表していった「イメージの地図」です。イメージを広げたり関係づけたりしながら線をつないでいきやすいように、今回はマップに「色」「形」「動き」「何でも」という4つの大まかな観点に分けてかくようにしました。もっとじっくり見てみたいおもちゃに集まってグループを編成しました。机に広げられた大きなイメージマップ 中央の円におもちゃを置きました。

並べられたたくさんの伝統的な「おもちゃ」。これらのおもちゃをもとに想像をふくらませたりしたことを「おもちゃイメージマップ」に表しました。「おもちゃイメージマップ」イメージのもとになる「おもちゃ」から、感じたことや、想像したことを



おもちゃイメージマップ

改めておもちゃをいろいろな角度から見てみたり動かしてみたりながら、カラーペンで「おもちゃイメージマップ」への書き込みをした。書き込みの活動は3段階。まず、始めは中央から線を引いた児童がおもちゃから感じ取ったり想像したりしたことを書き込んだ。次に、グループの友達の書き込みを見ながら書き込みました。



赤い顔してるけど怒ってる？

図工室を自由に動き、イメージマップから他のグループのどんなことを感じ取ったり想像したりしたか見つめました。みの文の最後に名前を書いたり、始めは丸型、次は四角型、雲型で囲んだりして、活動の跡が分かるようにしました。おもちゃの色や形、動きなどの面白いところは何か、おも名前を付けるなら何がいいかなど、それぞれのおもちゃとジマップを見つめながら、児童それぞれがコミュニケーション図り、そのおもちゃのイメージを思い思いにつなげて書きいきました。

の終わりには感想を発表しました。他の人の感じ方をとらから作品を見ることで、自分の新しい見方になって、自分のイメージづくりや表現・鑑賞の大きな広つながることを学びました。



造形教育講演会 演題「子どもの表現活動と教師の役割」

講師：愛知教育大学 教授 竹井 史 先生

先生は初めの挨拶で、名古屋市や愛知県の造への期待と、そのために責任ある対応をする述べられました。

、安田先生の実践、郷土玩具の鑑賞で用いらイメージマップについて、子どもの主体性を保自己解決や達成感を味わわせるという環境にいることを示されました。

中で教師は、具体的にどんな支援をしていくどものイメージの広がりを支えることができについても話されました。

、伝承おもちゃについて、「サイエンス」「人の輪を育む」という優れた面を示され、「伝承おもちゃーフに題材化していくことは大変よい」と話されました。



最後に、「ストローロケット」と紙片でつくる「へこへこ君」のつくり方を教えていただき、参加者みんなで作って楽しむとともに、子どものつまずきやすい点などをご指導いただきました。

郷土玩具や伝承おもちゃのよさや大切さを改めて見直したり、実際におもちゃをつくったりするを通して、子どもの表現活動を支え、広げていく教師の役割について再認識することができました。

参加者の声

- 教師として、事前に気を付けることを考えておく重要性を感じ、とても楽しく講演を聞くことができた。
- 「イメージマップ」について、流し方によっては、子どもたちの意見が浅く終わる場面も、深まる場面もある点はなるほどと思った。
- おもちゃ中心で、自分の実践には生かすににくい面があった。

名古屋市造形研究会の活動

■ 研究主題：つくりつづける喜び 伝えたい感動 ■

喜びや感動にあふれた造形活動を展開するとともに、子どもたちの知的好奇心に揺さぶりを掛け、子どもたちが造形活動によって身に付けた力を発揮できるよう研究を推進しています。

◆実践研究部

- 研究主題に基づいた課題の中からテーマを設定し、指導や支援のあり方、評価について、授業実践を通して研究しています。
- 作品や活動記録を残し、授業実践の成果や課題を検証し、まとめます。

◆題材研究部

- 研究主題にせまるような子どもにとって魅力ある題材の開発や心を揺さぶる授業展開について、授業実践を通して研究しています。
- 授業実践の成果や課題をまとめます。

◆造形活動研修部

- 児童・生徒作品や評価資料を基に指導過程や支援、評価の方法について学習しています。また、夏季休業中などには、実技研修を行ったり、美術館などで研修を行ったりしています。実践にすぐ役立つ研修を中心に行っています。

◆作品展運営部

- 名古屋市児童生徒造形作品展の企画・運営を行います。市内小中学校の造形活動の成果を展覧することで、造形教育の振興を図っています。



アートインフォメーション

第35回姉妹・友好都市児童生徒書画展
第57回名古屋市児童生徒作品展

期間：平成25年
11月20(水)～24日(日)
会場：名古屋市博物館

名古屋市教員美術展

期間：平成26年
1月29日(水)～2月2日(日)
会場：名古屋市博物館

名古屋市造形教育研究会
ホームページをリニューアルしてください!

<http://www.meizoukyo.gr.jp/>

平成23年度から、名古屋市造形教育研究会（名造教）のホームページをリニューアルし、公開しています。

名造教について、会長挨拶、会員相互の親睦・交流など、名造教の1年を追って、その活動を紹介していく内容になっています。

また、子どもギャラリーも設置し、児童や生徒の作品を通して、若い先生の思いのこもった指導も紹介しています。ぜひ「名造教」のホームページを定期的にご覧ください！

YAHOO!
JAPAN

でも Google

でも、「名造教」で検索すると

すぐに出ます！ぜひご覧ください！！